

平成30年度 古文書講座の御案内

古文書の読解は、ナマの歴史に触れる第一歩です。郷土に伝わる古文書の読み方を学び、講座の仲間と共に、信濃の歴史について、学習を深めてみませんか？

I 講座内容

講座	内 容
初級	古文書はまったく初めてという方を対象に、まず、第1・2回で、くずし字辞典の使い方、人名、かななど古文書の基礎的な読み方、文書の書き方などを学習します。第3～5回では、近世の武家文書、庶民の日常生活に関わる文書の中から比較的読みやすい文書を読んでいます。
中級	ある程度古文書に親しみ、もう少し本格的に読んでみたいという方を対象に、生活や文化に関連する様々な文書を実際に読みながら、古文書読解の様々なポイントを実践的に学びます。
上級	くずし字辞典を使って古文書を読みこなせる方を対象に、ゼミ演習方式で、古文書の解読を進めながら、信濃の歴史について理解を深めます。1回あたり相当量の分量を読みこみます。

II 講座日程・募集人員・講師

講座名	日 時	人 数	講 師
初級A (休日)	① 6月10日(日) ② 7月8日(日) ③ 8月5日(日) ④ 9月16日(日) ⑤ 10月7日(日) 計5回 午前 9:30～11:30	40名程度 (最大50名)	小野 和英 伊藤 友久
初級B (平日)	① 6月14日(木) ② 7月19日(木) ③ 9月20日(木) ④ 10月18日(木) ⑤ 11月15日(木) 計5回 午前 9:30～11:30	40名程度 (最大50名)	小野 和英 伊藤 友久
中級A (休日)	① 6月9日(土) ② 7月7日(土) ③ 8月4日(土) ④ 9月15日(土) ⑤ 10月6日(土) 計5回 午前 9:30～11:30	40名程度 (最大50名)	村石 正行 畔上不二男
中級B (平日)	① 6月14日(木) ② 7月19日(木) ③ 9月20日(木) ④ 10月18日(木) ⑤ 11月15日(木) 計5回 午後 13:30～15:30	40名程度 (最大50名)	村石 正行 畔上不二男
上級	① 5月26日(土) ② 6月30日(土) ③ 7月28日(土) ④ 9月29日(土) ⑤ 10月13日(土) 計5回 午前 9:30～11:30	40名程度	尾崎 行也 (元県史常任 編纂委員)
ティーンズ	① 8月7日(火)② 8月8日(水)③ 8月9日(木) ④ 8月10日(金) 午前 9:30～12:00	40名程度	村石 正行

※初・中級ともA・B講座は同一内容。同級のA・B重複受講は不可。ティーンズは中・高・大学生対象。

III 受講料 1講座につき、お一人1,000円

IV 申込み受付 平成30年4月18日(水)～(定員になり次第締め切り)

V 申込み方法 別紙の申込書に、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号、受講希望講座名をご記入の上、郵送・FAXでお送りいただくか、ご持参ください。
※受講料は各講座の第1回講座の際に納入いただきますので、申込書に同封しないでください。

VI 申込み・問合せ 県立歴史館文献史料課 〒387-0007 千曲市屋代 260-6 TEL 026-274-3993(直通)

初級

1回（小野講師）古文書の世界へ踏み出そう 古文書に初めて触れる方でもご心配なく。まずは文字に慣れることから始めましょう、 地方文書を使ってくずし字とは何かを考えます。くずし字辞典の使い方も学びます。
2回（小野講師）「江戸時代の口留番所文書を見る」 常設展示室内に「関所と口留番所」のコーナーがあります。一部には古文書も展示しています。上水内郡小川村の立屋番所を通過したものはどんなものであったのか。史料をゆっくりと読み解いていきましょう。
3回（小野講師）「地方文書から江戸時代を見る」 江戸後期の史料を読みながら人びとの生活を追ってみましょう。私たちの生活との違いを発見できると思います。
4回（伊藤講師）江戸時代後期の村びとと書肆（しよし） 弐 寺澤家文書（更級郡）の書物の出入りを示す「世帯道具覚」などをテキストに、村びとの読書に対する意識を探ります。一つ書き文書をひたすら読み進める続編です。
5回（伊藤講師）明治改元150年 文書から見る長野県誕生 壱 明治新政府は、五榜の掲示や布令書を発し、その内容を村内に流布させました。これら、きれいで読みやすい文書をテキストに、今とは違う文字の使われ方を辞典で調べ読み解いていきましょう。

中級

1回（村石講師）江戸時代の武家の作法を学びましょう。 中級講座の第1弾は「小笠原流故実」を読みます。小笠原嫡流に伝承された本家の故実です。
2回（村石講師）近世の地震報告書を読んでみよう 矢代宿柿崎平左衛門が弘化4年の地震に際して、被害状況を記した文書があります。読み込んでみましょう。
3回（村石講師）中世の荘園文書を読む 当館所蔵の <small>おがわのしょう</small> 小川荘関係文書を読み解きます。貴族が所持した文書、地域の住民が代々所持した文書を読み比べましょう。少々難解ですよ。
4回（畔上講師）諏訪郡本宮政所文書をよむ 1 江戸時代、信濃国中の町村は、御柱祭や社殿再建等の寄付を通して、信濃一之宮である諏訪神社（現諏訪大社）とつながりをもっていました。第1回は北信地域とのつながりや内容を読んでみましょう。
5回（畔上講師）諏訪郡本宮政所文書をよむ 2 長野県に1000社以上、全国に1万社あるとも言われる諏訪神社。今回は、信濃一之宮諏訪神社と北信以外の信濃国各地および甲斐国とのつながりや内容をよんでみましょう。

※中級講座は初級講座5年程度の受講をめやすとしています。